

年始現在の天星指数にどんな価値があるのか？
今回は公表指数のより実践的な意味をお話します。

クラシックに向けての能力診断！
馬流天星
若駒 08 世代前半戦
指数公開

著：スカイポット@馬流天星
<http://baryutensei.com/>
baryutensei-forceshelt@yahoo.co.jp

目次

はじめに ～年始指数の意義について～	…3
◎若駒 08 世代前半戦指数公開	…11
○若駒 08 世代ピックアップ馬紹介	…15
終わりに	…19

はじめに ～年始指数の意義について～

あけましておめでとうございます。馬流天星のスカイポットです。無料レポートのご購読ありがとうございます(私自身の自己紹介は過去のレポートで行っていますので、そちらやHPをご覧ください)。

→<http://baryutensei.com/cgi-bin/920mousikomi.htm>

今回は恒例の1月初頭時点での若駒の指数公表を行います。元々は第一期に読者の方から、現状の指数上位馬を見たいというメールが届いたことから始めたもので、第一期でそこに示した馬たちがクラシック路線の重賞を席捲したことから、第二期、第三期では無料レポートの形で公開し、ご好評を得ているものです。

今回の機会に、実際どのような結果を出しているものなのか整理してみましょう。それによって、このレポートの意義をご理解頂けると思います。

これまでの紹介の仕方は、年末までに出たレースの指数を、中距離路線(1800m以上)、マイル路線(1500～1700m)、短距離路線(1400m以下)に分類し(第一期はダート路線もあった)、それぞれの上位馬を、中距離路線から上位20位ラインまで、マイル路線から上位20位ラインまで、短距離路線から上位10位ラインまで公開する形をとっています(第一期はそれぞれ上位10位まで、第三期は1月1週までかつ中距離路線は上位11位までとなっていた)から、ここでは「中距離・11位」といった形で表記します。また、順位は距離と指数の関係が同じクラス(級)である馬は同順位とし、上積みリスク(★)は今回プラス2で補正します。

例えば、1800m64の馬と2000m63の馬は同順位とするということ、1800m62★の馬は1800m64の馬と同順位とするということです。

☆2005年(第一期)☆

この年は天星流予想を開始した年で、まだ指数算出技術が安定しておらずブレが今よりずっと大きく、近年の指数よりも約3～5ポイント高い指数が出ているのが特徴です。ディーピンパクトがいた年で、ディーピンパクトは12月のデビュー1戦しかしていない状況でしたが、2000m68★という驚異的な指数をマークして「中距離・1位」を獲得していました。上積みリスク(★)がある状態でのランクイン、それも1位というところに既にディープ伝説の幕開けを感じさせますね。

◎クラシック3冠における年始指数上位馬の状況

2005年	1着	2着	3着
皐月賞	ディーピンパクト (中距離・1位)	シックスセンス (中距離・7位)	アドマイヤジャパン (中距離・4位)
ダービー	ディーピンパクト (中距離・1位)	インティライミ	シックスセンス (中距離・7位)
菊花賞	ディーピンパクト (中距離・1位)	アドマイヤジャパン (中距離・4位)	ローゼンクロイツ (中距離・2位)

インティライミを除く8つの席が年始指数上位馬で占められています。インティライミは年始時点でキャリア2戦、新潟2歳Sを6着に負けていましたが、3月に復帰して以後、2500mの500万下を5馬身差の圧勝、京都新聞杯で中距離指数上位馬相手に勝利するなど成長が見られ、ダービー予想時点でそれなりに評価することができるはずです(2番人気でした)。

ちなみに、皐月賞の4着馬はマイネルレコルト(マイル・2位)、5着馬はアドマイヤフジ(中距離・8位)、ダービーの4着馬はアドマイヤフジ(中距離・8位)、5着馬はマイネルレコルト(マイル・2位)、菊花賞の4着馬はシックスセンス(中距離・7位)、5着馬はフサイチアウステル(3月デビュー)となっていて、5着まで広げてもほとんどが年始指数上位馬でした。

○牡馬クラシック路線における年始指数上位馬の状況

2005年	1着	2着	3着
シンザン 記念	パールギユント (マイル・3位)	マイネルハーティー (マイル・5位)	マルカジーク (マイル・5位)
京成杯	アドマイヤジャパン (中距離・4位)	シックスセンス (中距離・7位)	コスモオースティン (中距離・20位以内)
共同通信 杯	ストーミーカフェ (マイル・1位)	ダイワアップセット	マルカジーク (マイル・5位)
きさらぎ賞	コンゴウリキシオー (キャリア1戦)	マキハタサーメット	アドマイヤフジ (中距離・8位)
アーリント ンC	ビッグプラネット (デビュー2月)	セイウンニムカウ (マイル・10位)	インプレッション
弥生賞	ディーピンパクト (中距離・1位)	アドマイヤジャパン (中距離・4位)	マイネルレコルト (マイル・2位)

若葉S	アドマイヤフジ (中距離・8位)	タガノデンジャラス (中距離・20位以内)	グッドネイバー
スプリングS	ダンスインザモア (キャリア1戦)	ウインクルセイド	トップガンジョー
毎日杯	ローゼンクロイツ (中距離・2位)	コスモオースティン (中距離・20位以内)	コンゴウリキシオー (キャリア1戦)
青葉賞	ダンツキツチョウ (中距離・4位)	ニシノコマデモ (中距離・8位)	ブレーヴハート
NHKマイルC	ラインクラフト (短距離・1位)	デアリングハート (マイル・20位以内)	アイルラヴァゲイン (短距離・5位)
プリンシパルS	エイシンニーザン (キャリア1戦)	シャドウゲート (2月デビュー)	ディーエスハリアー
京都新聞杯	インティライミ	コメディアデラルテ (2月デビュー)	アドマイヤフジ (中距離・8位)

上記13レースの1着馬のうち、年始指数上位馬が8頭、年始指数未出馬(キャリア1戦または未出走の馬)が4頭。年始指数が各路線の10位までにピックアップされなかった馬でキャリア1戦以下の場合を除き、上記関連レースを勝ったのはインティライミの1頭だけしかいません。

2着には3頭が指数上位外から成長して入ってきていますが、年始指数上位馬が8頭(未出馬2頭)と上位馬が多いです。3着も、年始指数上位馬7頭(未出馬1頭、年始指数上位外馬5頭)と、2着と同様の傾向が見られます。

この年は有力馬を個別にピックアップしていないのですが、ディーインパクトは間違いなくしていたでしょうね。

この年のダービーの本命馬はもちろんディーインパクトでした。ダービーを勝った後、菊花賞で無敗の三冠を達成。その後、天皇賞春、宝塚記念、(残念な凱旋門賞3位入線(失格)を挟み)ジャパンカップ、有馬記念を制し、七冠馬になりました。

☆2006年(第二期)☆

指数調整を途中でしっかり行わなかったため第一期と比較して指数が低めに出てしまいました。しかし、指数のブレは一気に縮小した期でもあります。結果的にはきさらぎ賞とスプリングSのレー

スレベル(指数)を見誤ったのがクラシックレースでの予想に失敗した敗因と考えています。

◎クラシック3冠における年始指数上位馬の状況

2006年	1着	2着	3着
皐月賞	メイショウサムソン (中距離・12位)	ドリームパスポート (中距離・6位)	フサイチジャンク (キャリア1戦)
ダービー	メイショウサムソン (中距離・12位)	アドマイヤメイン (中距離・19位)	ドリームパスポート (中距離・6位)
菊花賞	ソングオブウインド (1月デビュー)	ドリームパスポート (中距離・6位)	アドマイヤメイン (中距離・19位)

キャリア1戦のフサイチジャンク、1月デビューのソングオブウインドの2頭以外は年始指数上位馬で占められています。この年は上位が競っていましたから、3位から12位まではあまり差がありませんでした。

皐月賞の4着馬はアドマイヤムーン(中距離・1位)、5着馬はフサイチリシャール(中距離・3位)、ダービーの4着馬はマルカシエンク(中距離・2位)、5着馬はロジック(短距離・次点)、菊花賞の4着馬はメイショウサムソン(中距離・12位)、5着馬はアクション(3月デビュー)でした。5着まで広げてもほとんどが年始指数上位馬であることがわかります。ロジックが上位に入線できたのは、ダービーデーの芝コースの内側が極端に良い馬場になっていた影響だと考えています(一応、短距離路線の解説で名前を挙げています)。メイショウサムソンもアドマイヤメインもこの恩恵を受けており、後方からの馬はかなり厳しいレースとなっていました。

○牡馬クラシック路線における年始指数上位馬の状況

2006年	1着	2着	3着
シンザン 記念	ゴウゴウキリシマ (マイル・13位)	グロリアスウィーク (中距離・次点)	ロジック (短距離・次点)
京成杯	ジャリスコライト (中距離・6位)	トウショウシロッコ	ネヴァブション (中距離・次点)
共同通信 杯	アドマイヤムーン (中距離・1位)	フサイチリシャール (中距離・3位)	マッチレスバロー (マイル・3位)
きさらぎ賞	ドリームパスポート (中距離・6位)	メイショウサムソン (中距離・12位)	マイネルスケルツイ (中距離・12位)

アーリントンC	ステキシンスケクン	ロジック (短距離・次点)	アマノレンディ (マイル・次点)
弥生賞	アドマイヤムーン (中距離・1位)	グロリアスウィーク (中距離・次点)	ディープエアー (中距離・6位)
若葉S	フサイチジャンク (キャリア1戦)	キャプテンベガ	トーセンシャナオー (実質キャリア1戦)
スプリングS	メイショウサムソン (中距離・12位)	フサイチリシャール (中距離・3位)	ドリームパスポート (中距離・6位)
毎日杯	アドマイヤメイン (中距離・19位)	インテレット (芝出走なし)	マイネルアラバンサ (2月デビュー)
青葉賞	アドマイヤメイン (中距離・19位)	マイネルアラバンサ (2月デビュー)	エイシンテンリュウ (1月デビュー)
NHKマイルC	ロジック (短距離・次点)	ファイングレイン (マイル・13位)	キンシャサノキセキ (キャリア1戦)
プリンシパルS	ヴィクトリーラン (中距離・19位)	トップオブツヨシ (中距離・次点)	トーセンシャナオー (実質キャリア1戦)
京都新聞杯	トーホウアラン (1月デビュー)	アペリティフ	マイネルポライト (実質キャリア1戦)

13レースの1着馬のうち10頭が年始指数上位馬と、ここでも大活躍しています。ステキシンスケクンはクリスマスローズSがかなり不利のある内容だったのですが、レポート作成時点では、そのロスに指数に反映できていなかった覚えがあります。実際には短距離で載って良い内容だったのではと思います。ロジックもこうして見ると活躍していますね。2着は次点だった馬も含めると7頭が入ってきていてこれは結構意外。3着には未出馬が6頭とこれもかなり多いです。年始指数上位馬が中心で回りながらも、成長のあった馬や上積み馬も活躍した世代という感じですね。

この年のレポートでは有力馬として、アドマイヤムーン、マルカシエンク、サクラメガワンダー、フサイチリシャールの4頭の名前を挙げました。クラシックで馬券に絡んでいないのは冴えない選択でしたが、無事にダービーに顔を揃えることができたことを嬉しく思います。

アドマイヤムーンに対しては皐月賞もダービーも本命を打ち応援しました。クラシックで完敗したメイショウサムソンに対しても、相手が有利な条件となっただけで能力は負けていないと思っていましたが、その後、アドマイヤムーンは3歳暮れの香港Cでディープインパクトと好戦したプライド相手に頭差まで詰め寄り、ドバイデビューティフリー(G1)で日本馬での初勝利を飾り、宝塚記念、ジャパン

カップを制しました。宝塚記念とジャパンカップは宿敵メイショウサムソンを倒しての戴冠であり、よくやってくれたと感謝しています。もちろん、メイショウサムソンも私が思っていた以上の成長を遂げ、ムーンの好敵手となってくれたと思います。ジャパンカップのレース内容を見れば、アドマイヤムーンをもう超えてしまっているという印象を受けました。(有馬記念の結果からは突き抜けた器ではないこともわかるのですが)

☆2007年(第三期)☆

指数は安定してきていまして、指数1位のウオッカをダービーで本命にできたことは会心でした。一方、福寿草特別の指数を高く見積もってしまったのは失敗でしたね。

◎クラシック3冠における年始指数上位馬の状況

2007年	1着	2着	3着
皐月賞	ヴィクトリー (中距離・11位)	サンツェッペリン (中距離・16位)	フサイチホウオー (中距離・4位)
ダービー	ウオッカ (マイル・1位)	アサクサキングス (中距離・11位)	アドマイヤオーラ (中距離・1位)
菊花賞	アサクサキングス (中距離・11位)	アルナスライン	ロックドウカンブ (3月デビュー)

春の2冠は全て年始指数上位馬での決着でした。アドマイヤオーラが故障離脱した影響もありますが、秋は骨折休養で成長したアルナスライン、3月デビューで連勝を重ねた上がり馬ロックドウカンブが2, 3着に入るなど、牡馬の既成勢力はあまり強くなかったような印象を受けますね。

皐月賞の4着馬はアドマイヤオーラ(中距離・1位)、5着馬はメイショウレガーロ、ダービーの4着馬はサンツェッペリン(中距離・16位)、5着馬はドリームジャーニー(中距離・1位)、菊花賞の4着馬はエーシンダードマン(キャリア1戦)、5着馬はドリームジャーニー(中距離・1位)でした。やはり、5着まで広げても年始指数上位馬の活躍が目立ちます。

○牡馬クラシック路線における年始指数上位馬の状況

2007年	1着	2着	3着
シンザン記念	アドマイヤオーラ (中距離・1位)	ダイフスカーレット (中距離・4位)	ローレルゲレイロ (マイル・9位)
京成杯	サンツェッペリン (中距離・16位)	メイショウレガーロ	アルナスライン

共同通信杯	フサイチホウオー (中距離・4位)	ダイレクトキャッチ	フライングアップル (中距離・11位)
きさらぎ賞	アサクサキングス (中距離・11位)	ナムラマース (中距離・6位)	サムライタイガース
アーリントンC	トーセンキャプテン (1月デビュー)	ローレルゲレイロ (マイル・9位)	マイネルレーニア (マイル・11位)
弥生賞	アドマイヤオーラ (中距離・1位)	ココナッツパンチ (2月デビュー)	ドリームジャーニー (中距離・1位)
若葉S	ヴィクトリー (中距離・11位)	サンライズマックス	ナタラージャ (2月デビュー)
スプリングS	フライングアップル (中距離・11位)	マイネルシーガル (マイル・6位)	エーシンピーシー
毎日杯	ナムラマース (中距離・6位)	ヒラボクロイヤル	ニュービギニング (中距離・11位)
青葉賞	ヒラボクロイヤル	トーセンマーチ (1月デビュー)	フィニステール (キャリア1戦)
NHKマイルC	ピンクカメオ (マイル・次点)	ローレルゲレイロ (マイル・9位)	ムラマサノヨートー (実質キャリア1戦)
プリンシパルS	ゴールドデンダリア (1月デビュー)	プラテアード	コマンドールクロス
京都新聞杯	タスカータソルテ (中距離・1位)	ローズプレステージ (中距離・16位)	サンライズベガ (4月デビュー)

13レースの1着馬のうち9頭が年始指数上位馬、2頭が未出馬、2頭がそれ以外と、大体例年通りです。2着馬は6頭が年始指数上位馬、2頭が未出馬、5頭が年始指数上位以外馬。3着馬は4頭が年始指数上位馬、4頭が未出馬、5頭が年始指数上位以外馬。2、3着はピックアップできていなかった馬が第二期、第三期よりも多かったです(見た感じだと、中距離の未勝利戦で足踏みをしていた馬が一気に成長するケースが多いように思います)。

この年のレポートでは有力馬として、タスカータソルテ、アドマイヤオーラ、ドリームジャーニー、フサイチホウオー、ウオッカ、ダイワスカーレットの6頭の名前を挙げました。このうち5頭はダービーに出走し、ウオッカが牝馬にしてダービーを勝ちました(アドマイヤオーラがダービー3着、フサイチホウオーが皐月賞3着)。ダービーに出走していないダイワスカーレットは桜花賞、秋華賞、エリザベス女王杯を制しています。牝馬2頭の活躍に助けられましたが、良いピックアップができたと思い

ます。

ダービーを勝ったのは年始指数ではマイル・1位を記録していたウオッカでしたが、レポートでもマイルの指数上位馬をリストアップした後に、「今年は朝日杯と阪神JFの上位馬がそのまま来ています(去年が異例だったということでしょう)、この馬たちが牝馬の桜花賞路線、NHKマイルC路線を引っ張っていくメンバーだと思われますが、中距離組よりも層が厚く、指数もそれなりに高いので、中距離への殴り込みも成功するかもしれません」と記述しており、そのとおり中距離路線への殴り込み、更に今回の場合は牝馬でしたから、それ以上のことが起こったと言えます。

ウオッカはダービーを勝った後、展開や条件の不利が重なり、成績を落としています、JCを見る限り、王道路線の古馬一線級とも対等に戦える力がありますので、今後も何か常識を打ち破る活躍をしてくれないか楽しみです。

☆まとめ

過去3年のクラシック三冠における1～3着の27枠中22枠(81%)が年始指数上位馬であり、3枠が未出馬。ここまでで約93%の占有率となり、それ以外の馬がクラシックで馬券になるケースはかなり少ないという傾向が表れています。今年の場合でも現時点で、クラシックで馬券に絡める馬の多くは現れていて高い指数を出していると推測されます。

クラシックまでの道中についても、主要な3歳春の重賞やトライアルOPの勝ち馬39頭(13レース×3年)中27頭(69%)が年始指数上位馬であり、8頭が未出馬とここまでで約89%の占有率になります。年末までにある程度のパフォーマンスを出している馬がしっかり権利を取ってクラシックへ進んで行っていることがわかりますね。

もちろん、年始指数で1位や上位を取れているとしても、それが必ずクラシックに結びつくというわけではありません。おそらくは年末までにある程度の上位指数をたたき出しながら、更に成長を遂げた馬がクラシックで結果を出しているのだと思います。ですから、夏場のローカルで高い指数を出したことでランキングに載っている馬はピークを過ぎている可能性がありますね。いずれにせよ、年始指数上位馬の活躍は特筆できるものですから、ここで指数上位馬を把握しておくことは有意義なことと考えられます。

◎若駒 08 世代前半戦指数公開

説明は大体終わっていますので、早速今年の指数上位馬をご紹介します。

今回は、ほぼ例年通り、①中距離(1800m以上)、マイル(1500~1700m)、短距離(1400m以下)の三路線に分ける、②中距離路線とマイル路線の各上位20頭及び短距離路線の上位10頭をピックアップする、③指数は12/23までのものを採用、とします。

ただし今回は、第一期の方法、同じ馬が複数の路線にピックアップされた場合は、順位がより高い路線にて番号を振るものとします。ただ、いるのに書かないのも誤解を生むかもしれませんので、番号を振らない路線においても名前だけは挙げておきます。

☆中距離路線(1800m以上)

順位	馬名	指数	距離	指数時レース
1位	スズジュピター	62.8	1800m	東スポ杯2着
2位	サダムイダテン	61.5S	2000m	ラジオ NIKKEI 杯2着
3位	スマイルジャック	62.3	1800m	東スポ杯3着
4位	ブラックシェル	61.2	2000m	ホープフルS2着
5位	ダイシンプラン	60.0★\$	1800m	新馬戦1着
6位	フサイチアソート	61.9	1800m	東スポ杯1着
7位	マイネルチャールズ	60.2	2000m	ホープフルS1着
7位	オーロマイスター	61.2	1800m	中京2歳S5着
	ゴスホークケン	60.9	1800m	東スポ杯4着
	トールポピー	60.7	1800m	黄菊賞2着
9位	ホツカイカンティ	60.5	1800m	中京2歳S1着
10位	リッカロイヤル	60.1\$	1800m	コスモス賞2着
11位	タケミカツチ	60.0	1800m	東スポ杯5着
12位	ヤマニンキングリー	59.7	1800m	黄菊賞1着
13位	ブラックエンブレム	58.6\$	2000m	葉牡丹賞3着
14位	サブジェクト	58.4S	2000m	ラジオ NIKKEI 杯1着
14位	ノットアローン	59.4	1800m	黄菊賞4着
16位	メイショウクオリア	58.2S	2000m	ラジオ NIKKEI 杯3着
16位	ドットコム	58.2	2000m	ホープフルS3着
16位	アルスノヴァ	58.2	2000m	エリカ賞1着
19位	メジロアースラ	59.1\$	1800m	コスモス賞4着

20位	ベンチャーナイン	59.0	1800m	東スポ杯6着
	マイネブリッツ	59.0	1800m	野路菊S4着

過去三期の1位、ディーインパクト、アドマイヤムーン、アドマイヤオーラと比べると、朝日杯5着だったスズジュピターがトップということ、大体世代トップクラスが出てくるラジオ NIKKEI 杯をサブジェクトが勝ったあたりに、中距離路線が地盤沈下しているのが見てとれます。

更に、クラシックで期待されそうな指数上位馬サダムイダテン、ブラックシェル、ダイシンプランの父がそれぞれ、フォーティナイナー、クロフネ、タイキシャトル、という点も不穏です。フサイチアソートも母父こそサンデーですが父はトワイニングでG1までは信用できません。今期中距離路線は本番まで大荒れを考えながら予想したほうが良さそうです。インフルエンザで若駒のデビューが遅れているという今年は真打が未だに出てきていないのでしょうか。

20位に入れなかった馬では、カレイジャスミン、ダンツキッスイ、マイネルスターリー、ピサノエミレーツ、ショウナンアクロス、オースミマーシャル、ロスペトリュス、ダークエンジェル、トップオブマジック、チョウサンデイ、ディープスカイ、ニシノエモーション(楽勝リスク有り)あたりまで紹介しておきましょう。

☆マイル路線(1500m~1700m)

順位	馬名	指数	距離	指数時レース
1位	アポロドルチェ	65.4	1600m	朝日杯FS11着
2位	ゴスホークケン	64.8☆	1600m	朝日杯FS1着
3位	トールポピー	64.5	1600m	阪神JF1着
3位	オディール	64.5	1600m	阪神JF4着
3位	リトルアマポーラ	64.5	1600m	500万下1着
3位	レジネッタ	64.5\$	1600m	500万下1着
	エイムアットビップ	64.3	1600m	阪神JF3着
7位	キャプテントウレ	64.2	1600m	朝日杯FS3着
	スマイルジャック	63.8S	1600m	いちようS2着
8位	レーヴダムール	63.5	1600m	阪神JF2着
	スマートギャング	63.2	1600m	朝日杯FS15着
9位	エイシパンサー	63.2	1600m	新潟2歳S4着
10位	アロマキャンドル	63.0S	1600m	いちようS1着
11位	エフティマイア	62.8	1600m	新潟2歳S1着
12位	レッツゴーキリシマ	62.7	1600m	朝日杯FS2着

	タケミカツチ	62.7S	1600m	デイリー杯2着
13位	ミッキーチアフル	62.5	1600m	500万下2着
14位	ドリームシグナル	62.3	1600m	朝日杯FS4着
15位	ミゼリコルデ	62.0\$	1600m	500万下2着
16位	レオマイスター	61.5	1600m	ひいらぎ賞1着
16位	シャランジュ	61.5	1600m	阪神JF5着
16位	カレイジャスミン	61.5	1600m	阪神JF7着
19位	アサクサダンディ	61.3	1600m	未勝利戦1着
	ヤマニンキングリー	61.2	1600m	朝日杯FS7着
20位	タケショウオージ	61.2	1600m	新潟2歳S5着

67級がトップだった昨年と比べれば低いですね。上位は当然朝日杯FSと阪神JFになりますが、朝日杯で惨敗したアポロドルチェのほうが勝ったゴスホークケンよりも高い指数となっています。上位には年末の条件戦を勝ったリトルアマポーラもいまして、ちょっと強い馬が出てくればこのあたりにはすぐに上がれるレベルなのでしょう。展開次第で逆転が起こりそうですね。

20位よりも下では、ウイントリガーやフォーチュンワードなどがいます。

全体的な指数は低いですが、昨年に続き、マイル路線のほうのレベルがやや高いところで拮抗していますので、距離を延ばしても活躍する馬が出てきそうです。

☆短距離路線(1400m以下)

順位	馬名	指数	距離	指数時レース
1位	サマーエタニティ	71.8	1400m	未勝利戦1着
	アポロドルチェ	69.0	1400m	京王杯2歳S1着
2位	エイムアットビップ	71.0	1200m	未勝利戦1着
3位	メイプルストリート	69.5	1200m	つわぶき賞1着
	オディール	66.3	1400m	ファンタジーS1着
4位	スマートギャング	68.7	1200m	福島2歳S1着
	スズジュピター	65.5	1400m	ダリア賞1着
5位	スワンキーポーチ	68.5	1200m	フェアリーS2着
6位	マイネブリッツ	65.0	1400m	ききょうS1着
6位	マルブツイースター	68.0	1200m	小倉2歳S1着
6位	ビーチアイドル	68.0	1200m	フェニックス賞1着
6位	マイネレーツェル	68.0	1200m	フェニックス賞2着

6位	オリジナルフェイト	66. 0★	1200m	新馬戦1着
----	-----------	--------	-------	-------

最後に短距離路線。1位はサマーエタニティですが、追って伸びる馬ではないため、この指数はあてになりません。2位のエイムアットビップは勝ちあがった未勝利戦の内容が素晴らしかったです。末脚も使えるのでマイルでも走れないことはありませんが、スピードに優れたタイプであり、指数の出方からしてもスプリンターの素質が強いですね。3位のメイプルストリートは地味な路線から勝ちあがってきていますが、つわぶき賞の内容も良く、持続系なので距離延長でもやれそうです。4位スマートギャングは朝日杯の内容からはマイルでも走れないことはないのに、短距離からマイルの間の穴馬候補です。福島2歳S組がこのランクに載るのも異例ですね。5位はフェアリーSで上積みを見せたスワンキーポーチ。

10位の下には、レッツゴーキリシマ、ドリームシグナル、エーソングフォー、エイシパンサー、ミッキーチアフル、マヤノベンケイ、ダノンゴーゴー、ルルパンブルー、フォーチュンワード、マイネルアトレあたりまで挙げておきましょうか。イメージ的しやすい形で書けば、(フラット条件で)ダイワマックワンに半馬身以上先着できる指数を出している馬はここまでということになります。

○若駒 08 世代ピックアップ馬紹介

1.スズジュピター 牡

父:タニノギムレット

母:ジュピターズジャズ(サンデーサイレンス)

厩舎:高橋裕(美浦)

主戦:後藤浩輝?

SHP:加速○、持続◎、タフ○

12/09 中山:朝日杯FS⑤<1600m59.9>

11/17 東京:東京スポーツ杯②<1800m62.8>

08/11 新潟:ダリア賞①<1400m65.5>

朝日杯では仕掛け遅れや条件不利があり、ちゃんとした見せ場がなく5着に敗れました。差し馬の柴田善臣騎手は信用できない例、タニノギムレット産駒は中山が苦手だという例が増えた印象です。

しかし、東京スポーツ杯で3ヶ月の休み明けでいきなりダリア賞のパフォーマンスを超える内容を示せたことは短距離よりも中距離への対応力があるということでしょうし、内を掬ったフサイチアソートには負けたものの大外を回っているの指数は上です。

ダリア賞ではレコードで勝っていて高速馬場やある程度のスピード勝負にも対応できます。加速系と思っていましたが、よくよく見るとやはり持続のほうが上かなとも思え、そこだけ修正しました。良い意味でズブさを活かせるレース展開が望まれます。

他の上位有力馬に血統や特徴に不安がある分、一応現時点ではこの馬がクラシックに向けては最上位という判断をしてみます。騎手は後藤騎手に戻ってほしいですね。

2.サダムイダテン 牡

父:フォーティナーナイター

母:ウメノダンサー(サクラユタカオー)

厩舎:中村均(栗東)

主戦:安藤勝己

SHP:加速◎、持続◎

12/22 阪神:ラジオ NIKKEI 杯2歳S②<2000m61.5S>

11/17 京都:新馬戦①<1600m57★S>

父の血統はダート短距離で大成するフォーティナーであり、ラジオ NIKKEI 杯の予想時に信頼できないと若干軽視したのですが、惚れ込んでいた安藤勝己騎手の目は伊達ではなく、クラシック登竜門と呼ばれる重要なレースでメンバー最高の指数を出しました。結果は2着だったのですが、出遅れて後方からの競馬となった点を考慮すれば負けて強しの内容と言えるでしょう。

血統面については、単純に父を見れば怪しいと思いつつ、(この馬がそうかはまだよくわかりませんが、)真の名馬に血統は関係ないでしょうし、この馬の牝系を辿ると華麗なる一族(1957年にイギリスから輸入されたサラブレッド、マイリーの牝系子孫のこと。イッター、ハギノツプレディ、ダイイチルビーなど活躍馬多数)につながっており、そちらの底力がこの馬を芝で生かしているのかもしれない。

新馬戦では好位置からの競馬で、4角で仕掛けられるとスピード余って直線入り口には先頭に立ち、安藤騎手が後ろを振り返る楽勝でしたから、加速系SHPも相当のものです。それでいて、ラジオ NIKKEI 杯で見た差し脚からは持続系SHPも強く輝きました。大きなレースでも通用できる特徴を持っています。

3.ゴスホークケン 牡

父:Bernstein

母:Allthewaybaby(Grand Slam)

厩舎:斎藤誠(美浦)

主戦:勝浦正樹?

SHP:スタート◎、ダッシュ○、加速◎

12/09 中山:朝日杯FS①<1600m64.8☆>

11/17 東京:東京スポーツ杯2歳S④<1800m60.9>

10/14 東京:新馬戦①<1600m56★>

朝日杯は条件、展開、スタートも完璧に決まったことによる幸運の連続(そもそも8分の1の抽選を当てて、最内枠を取った流れがあった)での結果であり、安易にあの楽勝を評価できないというのも穴の視点では重要なのですが、東スポ杯の敗戦が体調不良ということをはっきりしていますので、まだ底を見せていないという見方もできます。

それぞれのレース内容からは、スタート、ダッシュともに非常にセンスがあり、差し一辺倒では効かないこれからの競馬では強力な武器となります。勝浦騎手があるまま乗れるのかはわかりませんが、内枠を取れば中山は上手い勝浦騎手ですから、皐月賞までは乗せてほしいところですね。

久しぶりにマル外で強い馬となるのか注目しています。目標はNHKマイルかもしれませんが、弥生賞から皐月賞というローテを組んでも良い馬だと思います。

4.マイネルチャールズ 牡
父:ブライアンズタイム
母:マイネプリテンダー(Zabeel)
厩舎:稲葉隆一(美浦)
主戦:松岡正海
SHP:加速△、持続◎

12/23 中山:ホープフルS①<2000m60.2>

12/01 中山:葉牡丹賞②<2000m58.6\$>

11/10 東京:未勝利戦①<1800m60.5>

まだ気性が安定しておらず、展開が落ち着かない展開で引っ掛かる素振りを見せていながらも、最後にまだ伸びたという不器用ながらも強い未勝利戦のレースを見て、早々と目をつけていました。

葉牡丹賞では蛸名騎手が絶妙な超スローで逃がしたミステリアスライトに負けてしまうのですが、エンジンのかかりが悪いこの馬の能力を出す前にゴールが来てしまった形でした。鞍上もそれを修正して、ホープフルSでは直線馬群の外に出して結果を出しました。ブラックシェルはロスの多かった競馬で上がりも指数はこちらのほうが下でしたが、前で競馬できるセンスで今後も対等以上の競馬ができるでしょう。

この馬は、G1など厳しい流れになったときにも屈しないだろう持続系SHPがある一方、加速系SHPが低いことからトライアルで力を発揮できないことが想定され、既に皐月賞の穴馬候補として考えられます。中山 2000mを既に勝っていますし、父ブライアンズタイムはその周辺を固めるに十分だと思います。おそらく鞍上の松岡騎手も去年のサンツェッペリンで皐月賞への思いはあるでしょうし、前めで積極的な競馬ができる騎手としても評価が高いです。

京成杯も勝利→スプリングSあたりで敗退→皐月賞好走の流れを期待します。

今年は少ないですが上記4頭だけのピックアップとします。以下、クラシックに向けて意図的にピックアップしなかった馬へのコメントです。

アポドルチェはマイル路線1位、短距離路線でも実質1位の指数を出しているこの世代の最上位クラスの馬だと思っていますが、目標は既にNHKマイルCという話もありますし、クラシックへの

適性を測るために共同通信杯に出走してはクラシックまでもたない気がして、ここでのピックアップはやめておきました。もちろん、共同通信杯でも出てくれれば本命を打てる素質があるとは思っています。

スマイルジャックは指数が高いですが、決め手が甘くG1で好走できるか考えると不安のほうが大きいです。また、鞍上は柴田善臣騎手が想定されますし、この馬自身の入れ込み癖もネックです。

ブラックシェルはラジオ NIKKEI 杯に行けなかった(=安藤騎手がサダムイダテンを選んだ)点、年始のレースに登録して今を急ぎすぎている点、父クロフネという点からクラシック級ではないかなと思ひ、ピックアップしませんでした。走り方は結構好きですけど。

ダイシンプランは新馬戦の直線で脚が折れそうな走りを見せていて故障が心配だったのですが、挫石で放牧に出てしまったようですね。素晴らしい末脚だったので迷うところもありますが、上積みの出にくい父タイキシャトルですから指名しませんでした。

フサイチアソートは東京スポーツ杯勝ちの実績を買われて一気に人気が高くなるでしょうが、スズジュピターほどの指数も出していませんし、父トワイニングがG1など厳しい舞台でマイナスに作用するときが来ると考えます。トライアルであれば、相手次第で当然買うべきですが。

オーロマイスターは新馬戦の内容が素晴らしかったのですが、中京2歳Sで上積みが普通の範囲にとどまってしまいました。父ゴールドアリュールは2勝目がすぐ出ないという巷の話もありますが、その通りとなってしまった形です。

今年は牝馬からのピックアップをしませんでした。去年、ウオッカとダイワスカーレットを掲載したのは、牡馬と混ぜても指数上位で牡馬クラシックを戦える指数と素質を持っていると思ったからです。今年の指数上位馬であるトールポピー、エイムアットビップ、オディールなどは、そこまでの器と思えませんでした。

おわりに

最後までお読みいただき、ありがとうございました。今期はこの馬を応援しようという馬がまだ出てきておらず(強いて言えばピックアップで紹介した馬たち)、これでいいのだろうかと思う部分もありますが、実際に算出した指数そのままに紹介してみました。参考にしていいただければ幸いです。

さて、今回のレポートにて、馬流天星及び筆者のスカイポットの若駒戦予想にご興味を持たれた方は、サイトのメルマガ紹介ページ(<http://baryutensei.com/08mailm.htm>)よりご登録して頂ければと思います。なお、まぐまぐによる代理登録を後日行いますので、急ぎでない方は後ほど登録させていただきます。メルマガ予想は、バックナンバーをご覧頂ければわかると思いますが、少なくとも無料では他にない程の水準かつ情報量だと自負しております。不調期もありますが、しばらく様子を見て頂ければ、私がここで公開している予想概念の効果をご理解頂けると思います。よろしくお願い致します。

また、情報発信者で競馬の社会的地位向上にご賛同頂ける方、私と同じく競馬予想に情熱を傾けていらっしゃる方、当レポートの引用や紹介を行って頂ければ幸いです。

※ [その場合には、ダウンロードページ\(http://baryutensei.com/cgi-bin/920mousikomi.htm\)](http://baryutensei.com/cgi-bin/920mousikomi.htm)へのリンクをお願いいたします。

次回は近々にも予想法公開(リスク編)を出したいと思っています。

では、皆様の今年の馬券成績がより良いものになることを祈念致します。今後とも競馬の楽しみを増幅させる情報媒体として、馬流天星(サイト、ブログ、メルマガ)を楽しんで頂けますよう精進しますのでよろしくお願い致します。

2008年1月3日 馬流天星 スカイポット